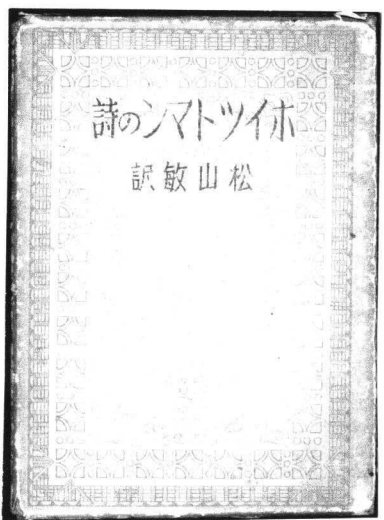


松山悦二 まつやま えつじ 譯詩家、小説家、評論家。明治二十六年四月（一日）  
崎縣延岡生れ（一九二一）。本名敏 とよし。早稻田大學文學部英文科を経て、  
東京外國語學校卒。『時事新報』、『國民新聞』、『ロジヤパン』、  
『タイムス』各記者ののち雑誌『人間』編輯長。また、人生社等と興して自著  
出版に當る。戦後農事への関わり、日本農業研究所、日本農民協會の各  
理事を務めた。

譯書 『ホイットマンの詩集』（昭和八年一月十日崇文館書店）、『ホ  
イツトマンの詩』（昭和十年一月十日大阪・巧人社）、『ホイツトマ  
ン詩集』（附録・吉川則比古譯『イエーツ詩集』昭和十四年五月十日  
金鈴社）、『ロングフェロウ詩集』

（昭和二十八年二月二十五日人生社  
『人生詩歌文庫』）、『ホイツトマ  
ン詩集』（昭和二十八年二月二十五  
日人生社『人生詩歌文庫』）、『ハ  
イネ詩集』（昭和二十八年二月二十



五日人生社『人生詩歌文庫』）、『シエリー詩集』（昭和二十八年五  
月五日人生社『人生詩歌文庫』）等（以上未名）。

著書、詩集 『若き日の影』（大正十一年五月二十五日金星堂）、『人  
生哲學』（昭和八年一月二十日新文書院）、『白向路めぐり』（附録白  
向傳説物語）、『（昭和八年二月十七日宮崎・文華堂）以上本名、『若  
き日の山郷』（人間山郷第一節）、『（昭和十一年三月十日高千穂社『高  
千穂文庫』）、『新日本建設の山郷』（人間山郷第二節）』（昭和十一年  
年七月一日高千穂社『高千穂文庫』）、『人間山郷』（昭和十二年五

月八日人生社）、『人間ヒツトラー』（昭和十四年四月十八日人生社  
 「人生新書」）、『人間注兆銘』（昭和十五年一月二十五日、再刊。  
 四月、二十日人生社「人生新書」）、『若き楠木正成と勤王精神』（昭  
 和十七年九月二十五日人生社）、『人間曲郷隆盛』全三冊（本名、青  
 春の巻、新日本建設の巻、昭和二十八年一月二十日、城山最期の巻。  
 二月、二十五日人生社「人生伝記新書」）、『貧しき人々の群』別名、  
 恋愛と結婚』（昭和二十八年四月十日人生社「松山敬著作集」）、小  
 説『曲郷南洲』（本名、昭和二十八年五月二十五日人生社）、『作家  
 ・金・女』（昭和二十一年四月二十日鱒書房）、『マス・コミ時代を  
 どう生きるか』（昭和二十二年五月二十日現代社）、『才女時代トマ  
 ス・コミン生きる女性たち』（昭和二十二年十一月二十日朋文社）、『名  
 作はこうして生まれた』（昭和二十二年四月一日アジア出版社）、『こ  
 のあとにふづくこう』（編、昭和二十四年一月一日講談社『大のこひこ  
 年生』2月号付録）、『<sup>明治</sup>大正作家追想——編集者の見た34人』（昭和  
 四十年十一月二十日社会思想社「現代教養文庫」）等。

